

んだよ。」小滝を4つ過ぎてF1 10m,そして、これからナメと滝の連続となる。大きい滝ではないが、5m くらいのもものが続く。どれもむずかしくない。やはり期待は無理だ。ところが、素晴らしいナメがでてきた。長さは約200m。程良い傾斜と沢床が黄色で滑らかなため、まるで舗装の道のようなのである。ジャブジャブとおもしろく歩いてゆける。水は溪流写真のように、滞らず、一米乱れずに流れてゆく。見事だ。このままどこかに通じているように鑑賞してくる。

まもなく伏流となり、ハイマツのブッシュをこぎ、県境尾根へ出た。

(記。)

遷行開始(6:45)——伏流(8:00)——尾根(8:15)

滑谷沢  
滑谷沢右俣右沢

1981年8月30日

L.

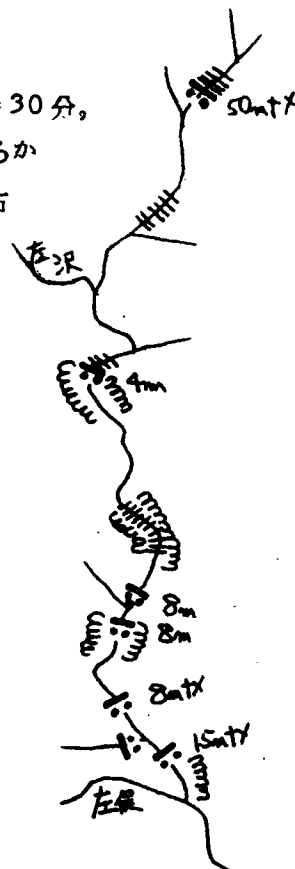
幕営地から旧国道を滑谷沢出合まで、約50分歩く。6時30分、滑谷沢左俣の下降開始。はじめはゴーロ状であるが、中ごろから沢床がグリーン系のナメとなる。滝を3つ程越えて8時、右俣分岐に到着。

右俣に入るとすぐ15mナメ滝が現われ、我々を喜ばせる。その先5分足らずでまた8mナメ滝。そして20分あとに、今度は完全な滝、8m。ここは左岸を直登する。この次の8mもわけなく直登して進む。50mほどのナメ、4mの滝、小さなナメと過ぎ、ゴーロ状となったところが左沢との分岐。ここで相前後して進んできた萩原パーティとわかれる。

ナメが続く。右岸に支流をわけた所にかかる50mトイ状ナメ滝を越えると、水量は極端に減り、一部は伏流となっている。10時45分、沢に別れをつけ稜線をめざす。

(記。)

右俣出合(8:00)——左沢分岐(9:35)——終了(10:45)



滑谷沢右俣右沢

(作図:菅野)